

令和3年度第2回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和4年2月7日（月）14:00～15:45

場所：土佐市複合文化施設つな一で 3階 大会議室

出席：委員23名中、18名が出席（代理出席2名含む、オンライン参加13名）

議事：（1）地域アクションプランについて

- 1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について
- 2）仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等について

（2）産業成長戦略について

- 1）第4期産業振興計画における戦略の方向性と重点ポイント（案）について
- 2）観光振興の取り組みについて
- 3）移住促進の取り組みについて

議事（1）（2）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）地域アクションプランについて

- 1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

（No.1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進）

（中山委員）

JA高知県佐川支所と生産者団体、生産組合の間で、工場の使用について、少し問題が起きている。「生産体制の強化」よりも、まずはここを解消しなければ、佐川茶の生産ができなくなるおそれがある。どのように指導するのか。

次に、JAが令和元年に新規に製造加工機械を導入したが、2年も経たずに、加工及び運営を生産者へ委託したいという発言があったと聞いた。今後、どういう流れになるのか。

次に、課題に記載している自走式茶園管理機の導入では、どういったところを想定しているのか。既にできるところは導入しており、今は更新時期にきていると思うが、新しい機種への切り替えをどのように指導していくのか。

次に、販促活動に関しては、一番農家の収入を上げていく大事なところだが、もう少し具体的な説明をいただきたい。

最後に、産業成長戦略のところ、サステナブルツーリズムの推進という説明もあったが、私たち茶業関係者でもティーツーリズムという考え方を取り入れて、地域と地域の事業者の間で商品開発や、人的交流の増大を目指した取り組みを個々で始めている。こういった視点をうまく取り込めないかと思っているので、検討をお願いしたい。

（中央西農業振興センター高吾農業改良普及所 池澤所長）

茶工場使用の関連については、JAでの対応を確認し、状況に応じて検討していく。

次に、自走式管理機械については、今後導入が可能なところを1年間掛けて見回り、模擬運

転を行っているが、大規模茶園でないと導入が難しいと考えている。現在、県においては、土佐茶の振興という視点で、茶園の改植や機械の更新も含めた議論が始まったところで、管内の市町村とも協議しながら、具体的な土佐茶振興策を実行に移していきたい。

次に、販売促進については、土佐茶の振興策の中で取り組んでいく。特に、海外では、グローバルギャップ認証に取り組んでいる地域のニーズが高まっていることから、この1年間、仁淀川町の池川茶生産組合で、グローバルギャップに基づいた農薬使用の実証しているところで、令和5年度の輸出に向けて取り組んでいる。

(廣瀬地域産業振興監)

サステナブルツーリズムということで、ティーツーリズムの提案をいただいた。観光振興部が取り組もうとする一つの大きな具体例になるかと思うので、連携しながらやりたい。仁淀ブルー協議会でも、SDGsを意識したツーリズムに取り組むようにしているため、一緒に取り組んでいきたい。

先ほど、JAの茶工場の関係、ハード整備、自走式管理機の関係については、地域本部としても課題を把握し、それに向けた取り組みをしていきたい。

(中山委員)

お茶の生産をあと何年続けられるかという方々も多数おられるので、早急に実行に移していただきたい。

私共も独自で協議会をつくり、輸出のこと等も検討している。九州へ今年2回ほど視察に行ったが、キーワードは「有機」である。それに加え、渋みが少なく、熱湯で簡単に出せ、香りに特徴があるものが、海外のバイヤーに求められている。九州では、どんどん製品化し、農家に直接バイヤーが入ってるところがたくさんあった。

こうしたことも踏まえ、輸出向けに適したお茶について、もう一度考え直してもらいたい。

2) 仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等について
意見交換等、特になし。

(2) 産業成長戦略について

1) 第4期産業振興計画における戦略の方向性と重点ポイント(案)について
意見交換等、特になし。

2) 観光振興の取り組みについて

(大山委員)

仁淀川流域の観光振興の追い風になるNHKの朝ドラ放映が決定したが、これに対して、どういった施策を考えているのか。タイムスケジュール的な面も聞きたい。

流域の皆さんと一緒にあって、この機会を追い風にして、さらに観光振興につなげたいと考えているので、県は早目に施策を講じていただきたい。

(観光政策課 鈴木課長)

今日も、朝ドラをどう活かすか、知事を交えてキックオフ会議をしたところ。

具体的なスケジュールについては、これからになるが、今回のドラマをきっかけに、県内全域に波及させていきたいのがまず第一にあり、牧野のゆかりの地、あるいはその場所を全県で掘り起こしをしていかなければいけないと考えている。

その上で、ドラマの中でいかに高知が取り上げられるかも、重要なポイントと考えているため、秋から始まるロケに向け、フィルムコミッションの実行部隊が、NHK や制作会社へなるだけ県内でのロケが実現できるよう働きかけをしていきたい。

また、素材を生かした積極的なPR を柱として、今年の春先から始まる旅行会社へのセールスや、お客さんに周遊してもらえようロケ地マップ等の受け入れ側の整備、また牧野植物園あるいは佐川町周辺などでの市町村が中心となった渋滞対策についても、しっかりと連携してやっていきたい。

3) 移住促進の取り組みについて

(小田委員)

産業成長戦略について、まず産業振興計画 ver. 3 に向けた重点ポイント『「新しいひとの流れ」を捉えた中山間地域の振興』を踏まえて、ページ下のところに、強化する施策として「新しいひとの流れを呼び込むための移住促進策」につながっていると説明があった。

資料 5-1 の観光キャンペーンでも「ひとの流れ」を呼ぶことになり、また資料 6 の移住政策と、この 3 つがどのようにつながっているのか、教えてもらいたい。

(計画推進課 久米補佐)

産業振興計画は様々な施策を取りまとめたもので、都会から地方への人の流れを呼び込むため、移住促進やテレワーク・リモートワークの導入促進、観光による人の呼び込みなど、横串を通しながら取り組んでいく。

(小田委員)

産業振興計画 ver. 3 のポイントで、「ひとの流れ」から中山間地域の振興という言葉があったが、どうイメージされてるのか、私にはイメージしづらいのでお聞きしたい。

(計画推進課 久米補佐)

中山間地域のハンデを克服できるような施策を組み合わせながら取り組みを進めていく考えである。ご意見は、中山間振興の担当部局にも伝える。

(小田委員)

コロナを契機として、都会から地方へという「新しいひとの流れ」という言葉もあったので、そこは全国的にどこも考えている部分だと思う。高知県らしさを打ち出していないと思う。

(以上)